

2009年2月13日

<日本板硝子 2009年3月期 第3四半期決算説明会 主な質疑>

1. 生産能力削減について

1) 自動車用ガラスの生産能力削減をヨーロッパと北米でどのくらい削減するのか？

- A: Auto は、およそ15%の能力を削減します。

2) フロート生産能力は、欧州以外の地域で15%削減とは、どのくらいの規模なのか？

- A: BP フロートは、稼働中のラインの閉鎖やソーラーへの転換、定期修繕をむかえるラインの停止、定期修繕中のラインの再稼働時期見直しをします。

3) フロート生産能力削減15%の根拠は？

- A: 顧客の需要をベースに、余剰キャパを計算して出しています。

2. コスト削減効果について

1) 構造改革によるコスト削減効果は、2010年3月までに80億円/年、2010年4月以降で150億円/年とありますが、もっと効果があるのでは？

- A: それは人員削減効果の数字です。他のコスト削減策もあります。

3. BSについて

1) 純資産が大きく減っているが、どのように理解したらよいか？

- A: 資産と負債のおよそ80%は、日本円以外の通貨建てのため円高の影響がでますが、為替調整勘定に反映されています。

2) のれん減損のリスクはあるか？

- A: 本日時点で、そのような状況にあるとは認識しておりません。

3) 製品在庫の評価替えはあるか？

- A: 在庫損金処理の見直しはありません。

4. 業績見通しについて

1) 4半期ベースで見ると4Qで130億くらいの赤字になる予想になりますが、いつのタイミングで業績は回復するとみているのか？

- A: 来年度は、構造改革の年になります。来年の見通しは5月の段階で話をいたします。考え方としては、構造改革により、市場の回復とは別に当社のFY11(2011年3月期)の収益性は今期に比べてよくなると思っています。

5. キャッシュフローについて

1) リストラ費用もあり来期厳しいように思えるが、どのように対処するのか？

- A: 投資額を減価償却費の約70%に抑えるなどキャッシュフローを積極的に管理します。

以上